



写真等無断転載禁止

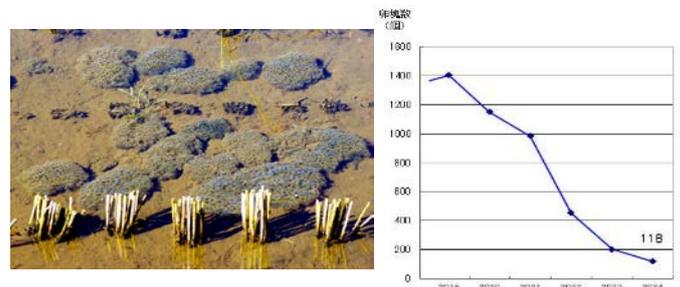
ニホンアカガエルの一平 ～千葉県緑区下大和田の田んぼ在住～

聞き手：市原市 南川 忠男

ぼくは下大和田で1年前に生れたニホンアカガエルのオスだ。昔、人間がこの湿地のヤナギを切り、根を抜いて開墾し、水深いが米作りをし始めた頃にぼくらの祖先は300m下流からピョンコピョンコ移住してきた。冬でも田んぼにわき水がはいり、夏小さな昆虫が多いので繁殖してきた。ここはぼくらニホンアカガエルの天国だった。

でもこの場所の開発の話がでてきて、22年間ちば環境情報センターの人間たちがお米作りをしてきたが、2024年以降は米作りができなくなっらしい。そのため、アシは茂り、冬の水入れもしてくれなくなった。かろうじて湧き水でまだ少し水が残っているので、ぼくは、この2月に初めてメスを待つつもりだ。多くの仲間は南の斜面林の落ち葉の下で冬眠しているが、ぼくは深いあぜの中腹に穴を掘ってもぐっている。斜面のむこうのヘリポートの開発などで腹をすかしたイノシシが畔を夜ほじくり返して、仲間を食べていた。去年より仲間が少ないのはイノシシのせいか？と思う。おじいさんからの教え^註でメスがやってくる一番近い田んぼのあぜで待つつもり。メスと出会うには場所取りが一番大切らしい。

下の図は、卵塊の写真と網代おじさんたちが2006年から調べた卵塊数の2019年以降のグラフだけど、去年は118個だったのでメスだけで118頭いたことになる。



ぼくらが一番怖いのはサギだ。長い脚で水面に静かに立ち、注意深く周りを見て、ぼくらの気配を察したら、すぐに鋭いくちばしでくわえる。ほぼ逃げようがない。サギにたくさんの仲間がやられた。本当に怖い。サギにとってもえさの少ないこの時期の最高のごちそうになっているらしい。

しかし、ぼくらのこどもはアシが茂り、水がなくなったら、繁殖できない。でも幸い今、ちば環境情報センターの人間たちが大塚さん田んぼ（この場所から上流300mくらいで7年前から耕さなくなった）の根深い地下茎を取り除き、開墾している。その田んぼにピョンコピョンコ移るしかない。サギより生存が脅かされている。

300m泳いで移る土水路の脇にはへびがいる。ぼくらの天敵だ。ひいおじいさんからのサバイバル術が伝承されており、へびががさがさ来たら思いきりピョンピョンを6回して、息をこらして枯葉か泥の下にもぐって待つように言われている。天敵は多いがこの下大和田はえさの虫が多いし暮らしやすかった。

23年前に、田植えのあと、「カエルもみんなも大ジャンプ大会」をしていたよ。ぼくのひいおじいさんも田んぼで昼寝している時に捕まり、競争に参加させられた。ひいおじいさんは男の子がタイミングよくお尻を押したので一番になった。あんなに続けてジャンプしたのはへびに追われた時以来だと言っていた。体は子どもが触ると暑いので干からびてくるし、のどは乾くわで、田んぼに返されてから半日皆寝込んだぜ。あの時の人間の子どもの笑顔や親御さんたちの歓声が大塚さん田んぼで又ききたいなあ。



イラスト：つやまあきこ

おじいさんから聞いたが、毎年2月に、ちば環境情報センターの人たちが恒例のカエルの卵塊の数を数えていた。一塊に約千個の卵がある。覚えておいてくれ。ぼくたちオスはあぜに向かって一列に並び、精いっぱい声を張り上げてメスと呼ぶんだ。声を張り上げるといってもぼくたちニホンアカガエルは鳴き袋がないから耳を澄まさない人間には聞こえないくらいだ。僕は場所取りもいいはずだから、メスが水に飛び込むのを一番に待ち、思いを遂げられると思う。

メスに出会えなかったオスたちは、次の日にくるメスをひたすら待っている。ぼくらは思いを遂げると、又、冬眠するんだ。

冬の水張り田んぼがあってぼくらは生きていける。22年米作りが続いたこの場所から新天地に移りぼくらの子どもたちが生き延びられるようニホンアカガエルを代表して一平をお願いします。大塚さん田んぼでニホンアカガエルに出会ったら、それはぼくらの

子孫だぜ。ピョンピョンはねているから注意深く鍬を入れてくれよ。(一平より)

注:両生類の脳には伝承記憶はないので、おじいさんからの教えはないが、一平は本能的にそうする予定。

ボラの群れを襲うスナメリ達

大網白里市 平沼 勝男

2024年10月26日。毎週のように訪れている片貝の南側の堤防で(九十九里町小関)、とても印象に残るスナメリの生態を観察することができましたので報告します。

この日は波が強く、海の水は黄土色に濁っていました。南側の堤防の上を先端に向かって歩いている時に、妙に海水の色がそこだけ黒く見える場所がありました。近づくと黒い海面は広さがテニスコートの半分くらい。最初は丸い形でしたが細長くなったり、急に馬蹄形になったり巧みに形を変えます。どうやら魚の群れのようなようです。しかしその姿は水が濁っていて見ることはできません。そのうちに一部分でバシャバシャと音を立てて魚が飛び跳ねる姿が見えまし

た。体長20~30cmのボラでした。すごい数のボラが一か所に固まっていることがわかりました。何をしているのでしょうか?



跳ねるボラ

そうしているうちに黒い水域の周辺でスナメリの姿があるのに気が付きました。最初は1~2頭かと

思ったのですが、形や大きさが異なるスナメリが5~6頭、しかもボラの群れを囲うようなポジションで布陣しているように見えます。ようやく状況が分かってきました。5~6頭のスナメリが集団でボラの群れを襲っている姿でした。しかもスナメリたちは連携した動きで、ボラの群れが逃げられないようにしています。可哀そうなボラ達は堤防に追い詰められて防戦一方。一塊になって耐え忍ぶしか方法はないようです。残念ながら決定的な、スナメリがボラを食べるシーンは水が濁っていた為見えませんでした。



手前のボラの群れに向かうスナメリ



やや離れた場所でボラとスナメリの頭

ここは南北に堤防で囲われた湾の中。この場所でスナメリが集団で行う狩を見る事ができてとても幸運でした。

市川市の人工干潟造成計画は今

- 市は4月以降土砂投入? 市民は大規模署名を展開! -

こちらのニューズレターで何度か書かせていただいた(第318~320号(2024年2~4月)、市川市の「人工干潟造成計画」は、さらに難しい局面を迎えており、その後の経過を報告するとともに、署名にぜひご協力いただきたいと思ひます。

市川緑の市民フォーラム 事務局長 佐野 郷美

2001年に千葉県民を中心とした30万人の署名によって広大な埋立計画から守られた海「三番瀬」の浅海域の一面に、市川市は市川航路浚渫土砂を投入して、100m×50m、0.5haの人工干潟を作ろうとしています。

その理由は「三番瀬をより良くするため」「市川には海があるのに、市民が海に触れ合える場所がないから」というのですが、それはどちらも間違っています。



渡り鳥を国際的に保護するための“ラムサール条約”では、「今ある湿地(干潟や浅瀬など)の生態的機能を上回るものを人工的に作ることは出来ない。」としていますし、環境省も、1997年の愛知県藤前干潟埋立計画の撤回時に「人工干潟は一時的に底生動物の増殖や、特定の生物の大発生などが見られるが、これは一時的なもので、最終的には元の生態系よりも貧相な生態系になってしまう」と述べています。

また、市川市民が市川の海に親しみ、近づいて海に降りて、海水、砂、そして生き物たちに触れる場所はすでにあるのです。それは、江戸川放水路河口にある自然干潟です(右のQRコードから、動画「歩いてみよう、市川の干潟～市民が親しめる干潟はすでにここにある」をご覧ください)。



ただし、ここは、駐車場・トイレ・足洗い場等がなく、海に降りる所にはコンクリートの塊が多数転がっていて整備が必要です。ここを管理する国土交通省江戸川河川事務所と相談して、生物多様性を守りつつ市民が利用しやすい場所にしてほしいと思います。

市川市はこの人工干潟造成に総額3.5～7.5億円かかると見ていて、2025年4月以降に、まず1億5400万円をかけて造成予定地へ市川漁港の航路浚渫土砂を投入する予定です。

今ある江戸川放水路の自然干潟を整備するなら、こんなに巨額の予算は必要ないのです。

★ぜひ、署名にご協力ください！(ネット署名も始めています)★

皆さん、ぜひ同封している署名「市川市の“人工干潟造成計画”の中止と江戸川放水路に今ある自然干潟の整備を求める署名」にご協力ください。この署名の呼びかけ団体は「市川三番瀬を守る会」ですが、私達「市川緑の市民フォーラム」は、この署名の趣旨に賛同し、積極的に集めることにしました。

署名用紙を同封します。2025年1月末、2月末に段階的に集約し、最終提出期限を3月20日までとし、1万筆を目標に集め、3月末までには市川市長に提出したいと思っています。ぜひ、ご協力をお願い致します。

若い方にも関心を持ってほしいと考え、貴センターの東邦大学理学部生命圏環境科学科1年の鈴木郁也(HN:ちば生物多様青年)さんが、ネット署名を始めてくれました。右のQRコードから入れます。よろしくお願ひします。



左写真が市川に今ある自然干潟です。動画もぜひご覧下さい。



左のQRコードからどうぞ

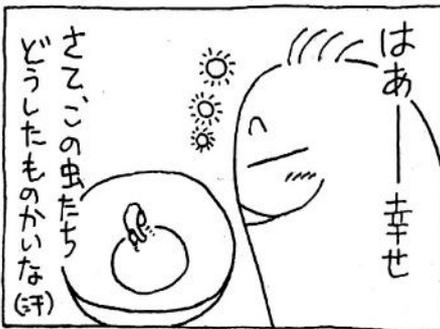
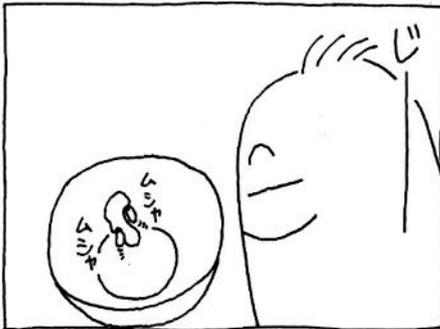
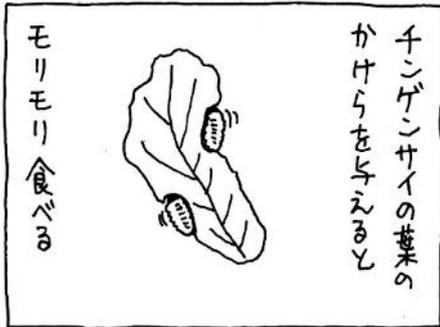
新浜の話83 ～ 杭州西湖遠征(2001年10月)～

トヨタ財団の研究コンクールからずいぶん年月が経った2001年のこと。トヨタ財団に助成されて行われてきた日本と中国の杭州大学との共同で、杭州西湖の水質浄化のための活動がありました。その締めくくりとして、国際シンポジウムを西湖で行う、ついでには水質浄化の取り組みの話をしないう、という

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子
お話がありました。私は日本から招待されて出向く(なんとカッコいい)ので、旅費等はぜんぶ主催者持ちです。これはいい機会、10月30日～11月3日の中国旅行、私の旅費がないだけ、みんなの旅費が浮く、いっしょに行こうよ、と、行徳組は6名が参加することになりました。

スロマン 作: 7月おきひ

(47)



つやまおきひウェブサイト
2世紀絵コロッジ~ <https://2leco.net/>

6名も行くのだから、何か芸がないと、と考えて、まず「明日があるさ」の替え歌で「行徳野鳥観察舎仕事人の歌」を作りました。もとバイト人の中沢真琴さんの妹さんが中国語学科、そのお友達の中国の方がふりがなと発音記号つきで中国語訳を。それを大黒柱1号の石川一樹さんのお母様、幸子さんが、同じくお友達の李玉慧さんと、どこをのばす、どこで区切る、と細かく修正して曲に合わせて歌えるように。仕上がった「行徳野鳥観察舎工作人的歌」はメロディにぴったり合ったすばらしい出来栄で、私は中国語版の方が歌いやすく、日本語版をところどころ忘れました。

歌に加えて「野鳥観察舎はこんなところ」のポスター、更に3月に購入してとりためたビデオ映像を大黒柱1号さんが「一樹プロダクション」に変身して、初めての紹介ビデオまで。筋書き等を石川幸子さん、出産直前の李玉慧さん、さらに李さんのご主人の孫勇東さんが中国語訳でプリントを。そんなこんなで10月の観察舎は学園祭前夜の大騒ぎ。友達の輪っ、からPTAまで動員。それでビデオもポスターもできたのですから、火事場の〇〇力というのはすごい。

おかげさまで中国旅行はとても面白いものでした。「観察舎工作人的歌」は宴会の席で2度にわたって歌いました。杭州市の副市長さんもご一緒の席で、2回目は通訳の学生さんたちもいっしょに歌っていただき、会場みんなが手拍子、大合唱。「明日があるさ」(中国語では「拝容明天(ハイヨウミンティエン)はみなさんが合言葉のように言うておられました。

不忍池をそのまま大きくしたような穏やかな西湖は、新婚旅行等の聖地だそうで、早朝から団体ジョギング。みなさん大声で元気いっぱい。故事や歴史建造物を見学したり、有名な钱塘江の大逆流(この時は高さ20~30cm程度ととてもおだやか)を見たり。西湖につながる河川で(杭州の学校ではここでパックテストを用いた水質調査をやっておられる)運ばれる荷物はほとんど石炭でした。

2001年10月当時、中国では国を挙げて環境教育・普及を進めているとのこと。「緑色学校」「緑色コミュニティ」「緑色基地」という形で、省随一の「緑色学校」の見学をさせていただきました。日本の当時の大学をしのぐような設備の中学・高校でしたが、図書室がなんとも貧弱で、図鑑が1冊もなかったことに驚きました。

最終日、シンポジウムに出席する私以外の5名は主催者側のはからいで「西溪湿地(シーシー湿地)の探鳥に行きました。夕食の席で、「今日、西溪湿地では41種の鳥が見られました」と達夫さんが発表すると、会場がどっどよめきました。後に聞いた話では、この場所は中国初の自然保護公園となって、埋め立てられた茶畑が湿地に戻され、多くの利用者を呼ぶようになっているとのこと。

最終日、一行は持参していた図鑑や双眼鏡を寄付してきました。緑色学校の役に立てていただきたいという願いからでした。短い旅行でしたが、お互いに得るところが多かった経験でした。

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2025年 2月号(第330号)の発送を 2月 7日(金) 10時から千葉市民活動支援センター(千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階)にておこなう予定です。お手伝いいただける方は事務局(小西 090-7941-7655)までご連絡ください。

住所 〒 キリトリセン

ふりがな氏名 Tel

E-mail FAX

編集後記: 我が家や知人の庭からいただいた花木で生けた正月花。買った花のような華やかさはないが、楚々として瑞々しく美しかった。12月に実施したコムギのピザとオオムギのビールの収穫祭にもたくさんの参加があった。種は人が撒いたが、育てたのは自然だ。大地の実りの豊かさは何物にも代えがたい。 mud-skipper ♀

会費の郵便振替口座は 00130-3-369499 です。

NPO法人ちば環境情報センターのニュースレターとイベント情報は、リサイクルペーパーを使用しています。

＜小山町での活動＞

☆第 231 回 小山町 YPP「古代米のもみすり」 2024 年 1 2 月 7 日（土）晴れ 報告：柳町健治
古代米とMY田んぼの 粃摺りを「古民家 和かな」で行いました。天候にも恵まれ順調に終わることができました。古代米はボランティア他お世話になった方々に少しずつですがおくばりしました。途中の昼休憩は古民家の中で予約していたお弁当を頂きました。相変わらず美味しいお弁当でした。参加者 5 名（大人 5 名）

☆令和 6 年度期 あすみが丘小学校脱穀作業 2024 年 1 2 月 1 6 日（月）晴れ 報告：江澤芳江
心配した寒さもほとんど感じることなく暖かい陽射しのもとでの活動になりました。5 年生 130 人を前半後半に分け、さらに 6 つのグループに分かれて、足踏み脱穀機や唐箕がけ、粃摺りを行ないました。子どもたちに 1 番人気があったのは脱穀し終わった藁を使っての縄ない。ボランティアのお父さん、お母さんから教わりながら、縄でリースを作ったり、長く延ばして縄跳びにしたり、夢中になって作っていました。今年のあすみ小田んぼの活動も、子どもたちやボランティアの方々のパワーで無事終わられたことにみんなで感謝して脱穀を終了しました。

【谷津田・季節のたより】 2024 年 1 2 月

＜下大和田町＞ 報告 平沼勝男

12/ 1 冬鳥の季節になりました。アオジの声がやぶの中から聞こえます。数は少ないようですがウグイスもやぶの中からチャッチャッと独特の地鳴きが聴こえます。心配なのはカシラダカです。今年は僅かなようです。シジューカラやヤマガラも少なく感じます。周辺の木を切られたりしたせいでしょうか鳥の数は全体的に少なく感じました。

＜小山町＞ 報告 た：たんぼぼ 高：高山邦明

12/ 6 冷え込んで早朝の気温が 2℃、クサシギが鳴きながら上空を飛ぶ（高） 12/8 師走だというのに田んぼにナツアカネやオオアオイトトンボの姿（高） 12/9 大きなフクロウ音もなく目の前を横切り飛来、近くの木から顔だけコチラを向けて様子を伺う（た） 12/12 田んぼ初氷（た） 12/13 クサシギが小学校田んぼに鳴きながら飛来（た） 12/14 田んぼにオオアオイトトンボが 1 頭、これが今季のトンボの最後の姿、カシラダカがアシ原に逃げ込む、久しぶりに田んぼでカワセミを見る、ヒヨドリがセンダンの実を食べに来ていた、田んぼの脇にキジバトの羽根が散乱、ノスリに襲われたのか（高） 12/22 田んぼの撮影にドローンを上げるとノスリが餌と間違えて飛び出してきた、田んぼでキジバトの群れをよく見かけるようになり、ノスリが狙っているらしい（高） 12/23 早朝にアカハラ、地上をてくてく（た） 12/28 2羽のメジロ、灌木周りで戯れる（た）、田んぼから冬鳥のタシギが 2 羽飛び立つ、タシギを見るのは久しぶり、カワセミが田んぼで餌を採っていた（高） 12/29 早朝、気温が氷点下 2℃まで下がって田んぼが全面結氷、ビワの花の蜜をメジロが吸う（高） 12/31 タシギ 1 羽が定着した様子で毎朝姿を見る、アオジやカシラダカも常連に（高）

【イベントのお知らせ】 主 催：NPO 法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655 , E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

＜下大和田谷津田＞

・森と水辺の手入れ「復田作業Ⅳ」

日 時：2025 年 1 月 1 8 日（土） 9 時 45 分～1 2 時 雨天中止

内 容：来年の米づくりに向けて、休耕田の復田作業を行います。

持ち物：長靴、長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物など 参加費：無料

・第 307 回 下大和田 YPP「新春 もちつき大会」

日 時：2025 年 1 月 1 9 日（日） 9 時 45 分～1 4 時頃

場 所：下大和田谷津田

内 容：下大和田産のもち米を使って、臼と杵を使った本格的なもちつきをします。

持ち物：お皿、お椀、コップなど。

参加費：中学生以上 5 0 0 円、小学生 3 0 0 円

・第 301 回 観察会とゴミ拾い

日 時：2025 年 2 月 2 日（日） 9 時 45 分～1 2 時 雨天決行

内 容：冬鳥の観察を中心に、鹿島川合流部まで巡ります。ニホンアカガエルの卵塊調査もします。

持ち物：筆記用具、飲み物、長靴、帽子、ゴミ袋、弁当、敷物 参加費：100 円

＜小山町谷津田＞

▼第 232 回 小山町 YPP「田んぼの手入れ」

日 時：2025 年 1 月 1 9 日（土） 10 時 00 分～ ☆小雨決行

内 容：今年の米づくりに向けて、あぜなど田んぼの手入れを始めます。

場 所：小山町谷津田 ※ 参加ご希望の方は、赤シャツ親父 (e-mail: tomizo_i@nifty.com)までご連絡下さい。

